

## 岸田政権の原発再稼働推進、原発「運転期間」延長、 廃炉代替原発の建設、新規原発建設等の推進策に反対！

11月3日に原子力規制庁は、60年の枠を取っ払って、(安全なら)無限延長案を発表した。この案に対して経産省は7日に「運転期間の上限の撤廃」ではなく、表向きは40+20年の上限を残し、停止期間を「運転期間外」として運転時間に含めない方向で最終調整に入った。11月15日に開かれた経産省の「総合資源エネルギー調査会」では有識者4人のヒアリングを行ったが、そのうち3人が「脱原発」を主張して、岸田政権の原発推進政策を批判した。

### 岸田政権の一方的な原発推進策を許すな

年末に予定されるGX検討会議では、2030年までを見ずえた方針として、既に再稼働承認済の10基で工期の短縮と調整を進めて最大9基の稼働を確保する。また規制委で設置許可済の7基についての着実な再稼働を図る。

原発の運転期間「原則40年」については停止期間を除外することで運転期間の延長を行う。廃炉原発の代替原発の建設を検討。また次世代革新炉の開発・建設を検討する。などを政府方針として決定しようとしている。

2011年の福島原発事故の反省による、「原発の安全性を最優先」「原発依存を可能な限り低減する」そして「再生可能エネルギーの拡大」を全面的に否定するものである。

### 自民党の旧統一教会との癒着は続く 統一地方選挙に向けて関係を温存

自民党は国会議員だけの、それも自己申告型の、全く不十分な調査しか行っていない。最大の関係者であった安倍氏について、細田衆議院議長や、羽生田政調会長などの調査も極めて不十分である。そして来年の統一地方選挙に関係する地方議員については調査もしていない。地方議員は国会議員の地元の活動を担い、その中から国会議員となる場合もある。こうした地方議員の旧統一教会との癒着は大きな問題である。今回の共同通信社が行った本人アンケートによる調査では、知事13人、市長9人と自民党中心に334人の都道府県議員が関係を認めた。

関係を隠蔽すると、結局、旧統一教会に過去の関係を握られて、いざという時にはそれによって支配されかねない。

### 名古屋入管でのウイシュマさん殺害事件 賠償裁判 DVD 提出で闘いは進む

昨年3月に名古屋出入国在留管理局の施設で収容中のスリランカ人のウイシュマ・サンダマリさんが体調不良を訴えたのに対し施設側は対応せず、結果的に死亡した。

この死亡について遺族は担当者を起訴するように請求したが起訴されなかった。検察審査会に起訴相当を申請。

⇒⇒オンライン署名：<https://chng.it/DZL2JXrMP7>

12月12日に国家賠償請求訴訟の第4回口頭弁論が開かれた。その中で国側はようやく5時間のビデオを12月中に出すとした。およそ295時間の中から国側が切り取った5時間はあまりにも短い。原告側は全ての提出を求めた。

### 経産省の原発稼働の延長に反対 「停止中」を運転期間外にする案に反対

稼働中の原発を「原則40年の期間」を超え、60年、80年と事故が起こるまで稼働させることは許されない。原発はいったん事故が起これば、放射能を放出し悲劇的な事故となる。政府・経産省は福島原発事故の教訓でつくられた「原則40年」を延長しようとしている。安全を優先すべき原子力規制委員会も従おうとしている。

原発運転期間「原則40年」の延長に反対する署名運動が呼びかけられている。ネット署名と紙版の署名が年内が目標で展開中である。ぜひ協力しよう！

◆ 原発運転期間「原則40年」の削除撤回ネット署名

<https://forms.gle/t3gpc5iYVnDDyCVm8>

◆ 紙版署名(PDF) [https://foejapan.org/wpcms/wp-content/uploads/petition\\_40years-2.pdf](https://foejapan.org/wpcms/wp-content/uploads/petition_40years-2.pdf)

### 「安保関連3文書」の閣議決定に抗議 日本を再び「戦争する国」にするな！

#### 国民無視の閣議決定は立憲主義・民主主義を破壊

岸田政権は16日に「安保関連3文書」の閣議決定を行った。これは、中国や朝鮮などを仮想敵国と決めつけて、自衛の名のもとに相手国を先制攻撃するものである。これほどの重大な政策転換が、国会論議もほとんどないまま、国民にも諮らずに内閣の閣議決定とすることは、立憲主義と民主主義を破壊するものだ。

#### 「安保関連3文書」は米軍指揮下の戦争準備

この政策は日本が大量の長距離ミサイルなど攻撃的兵器を保有して、米軍と連携して、中国や朝鮮などに対して、反撃と称して「敵基地攻撃」を行うものであり、実質的な先制攻撃である。そのために、5年で総額43兆円にも上る莫大な国費を軍事費につぎ込むものである。

これはアジアの軍事的緊張を高めるものであり、日本の深刻な経済状態を考えれば、まったく無謀なものだ。

平和憲法をもつ日本がなすべきことは、戦争に向けた緊張の激化策ではなく、外交努力によって平和への努力を積み重ねることである。岸田内閣と自民党に、「安保関連3文書」決定を撤回させるために闘ってほしい

軍拡と軍事費増大、そして戦争準備でなく、  
周辺諸国との平和のための外交努力こそが必要だ

## 南西諸島の迎撃部隊を3倍に(朝日 12/5)

「弾道ミサイル防衛(BMD)システム」に関して、政府が2031年度末までに目指す増強計画の概要。地上の迎撃網を強化するために、陸上自衛隊の14の地方対空部隊にミサイル迎撃網を付与。特に対中国として南西諸島の沖縄に6部隊、鹿児島・奄美に1部隊を追加。既に沖縄にある4部隊と合わせて11部隊となり、沖縄本島以外に宮古、石垣、与那国の3島に配置する。

## 環境省が除染土再利用の実証へ(朝日 12/7)

環境省は、福島原発事故の除染で出た「汚染土」の再利用について、東京都、埼玉県、茨城県内の同省関連施設で実証事業を行う。福島県内の中間貯蔵施設からは2045年までに県外の最終処分地への移動が法制化。駐車場や花壇で使用し放射線量の変化を検証する？

## 旧統一教会「被害者救済新法」成立(各紙 12/10)

旧統一教会による家庭破壊などの「被害者救済法」は自民・公明の妨害で審議が進まなかったが、岸田政権の「やってる風」を示すために、一挙にたった5日間の審議で10日に成立。「配慮義務」が強調されるだけの、「お粗末すぎる」「効果の乏しい」ものであった。維新が早々と賛成に回り、立憲も置いてきぼりを恐れて「合意」した。

## 送配電10社託送料金の値上げ申請(朝日 12/9)

大手電力の送配電会社10社は、来年4月から送電線の使用料＝託送料金の値上げを経産省に申請した。すでに燃料価格の高騰で電気料金は3割程度大幅に上昇しており、それをさらに引き上げるものとなる。

## 経済安保の技術育成 PG に公募をするな！(12/9)

12月5日から、科学技術振興機構(JST)や産業技術総合開発機構(NEDO)などが公募している「経済安保重要技術育成プログラム」は、大学等を兵器開発に組み込むものである。露骨に、南西諸島での「海洋情報システム構築」等の5案件(総額900億円)を公募している。軍学共同反対連絡会は公募しないことを呼び掛けた。

## 独立性を損なう「政府の学術会議方針」(12/12)

政府は12月6日に「日本学術会議の在り方についての方針」を公表した。8日の学術会議総会でその政府方針が説明された。その核心は会員候補選定のための政府・財界等による第三者委員会を設置し、会員候補選定自体に政府が権力的に介入することである。政府は来年の通常国会で、学術会議法の改正を行なおうとしている。

## 断固、法制化反対の声を上げていかなければならない。

## 関電、大飯原発3号機を16日に稼働(12/14)

大飯3号は、特重施設の未完成で3月から定検となり、今回は、特重施設の完成で再稼働。3号機は、2021年3月に冷却系の復水器配管に直径4cm程の穴があき、約20トンもの海水が漏れた。他にもトラブル頻発の大飯3号機の再稼働は極めて危険である。

## 「脱原発・放射能汚染を考える」を読んでください

このニュースは2011年5月から月に2回発行しています。原発問題、平和の問題、反維新などを掲載。メールアドレスをお送りいただければ送付します。申込み先:noborun2@amail.plala.or.jp

## 報告 岸田政権の国会めきの大軍拡にストップ



岸田首相は16日に「国家安全保障戦略」などを一括して閣議決定した。これに反対して15日に、国会前での抗議行動をはじめ、全国で、北摂でも高槻、茨木、豊中、摂津などで反対行動が行われた。豊中では30名ほどの市民が参加して、街宣とチラシの配布が行われた。

## 案内 軍拡と予算増に反対し伊丹自衛隊へ

兵庫県伊丹にある陸上自衛隊第3師団千僧駐屯地への抗議と申入れの行動は2004年以来続けられている。



12月25日10時から、軍拡と軍事予算の拡大に反対する213回目の申入れ活動が行われる。その後に阪急伊丹駅前、報告をかねて軍拡反対のチラシ配布も行う。

### 第4回わだつみ会オンライン連続講座

#### 「生き抜く」でなく「生き合う」世の中に

## 久保 敬さん 2月4日 14時～

(元 大阪市立木川南小学校校長)

「過度な競争を強いて、競争に勝った者だけが「がんばった人間」として評価される。そんな理不尽な社会であっていいのか。「生き抜く」世の中ではなく、「生き合う」世の中であってはならない。「競争」ではなく「協調」の社会を

ZOOM 参加申込は  
[noborun2@amail.plala.or.jp](mailto:noborun2@amail.plala.or.jp) まで連絡

## 日本戦没学生記念会 機関誌 157号 わだつみのこえ

12月2日に刊行しました。価格は1000円です。メールで住所とともに連絡いただければ送付します。申込み先:noborun2@amail.plala.or.jp

- 【改憲反対の闘い】 戦争と日本国憲法 「せめられたら」にどう答えるか 小林 武
- 【わだつみ会 8・15 集会報告】 「遺骨土砂問題」意見書運動と市民運動 西尾慧吾
- 【平和のための行動】 反戦詩人・四國五郎が伝える戦争の記憶 四國 光
- 【わだつみ会連続講座】 (第3回)「日本の平和博物館の歴史と現状」 山辺昌彦 第1回と第2回のその後の闘い続報
- 【書評】「知的障害と認知症」 西村武彦 朴貞花第2歌集「無窮花の園」 安川寿之輔
- 【関西わだつみ会報告】
- 【岩井忠正さん追悼】 わだつみ会、遠藤美幸
- 【会員メッセージ】 山科さん、今市さん、松井さん、徳野さん

**ロシア・ウクライナ戦争は即時停戦し、和平交渉を行え！**  
**米国・NATO、日本は武器援助・軍事協力を止めろ！ロシアは戦争拡大を止めろ！**